

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階ユニット)

事業所番号	2790900456		
法人名	社会福祉法人 大潤会		
事業所名	大冠カームグループホーム		
所在地	高槻市須賀町65番10号		
自己評価作成日	令和2年2月25日	評価結果市町村受理日	令和2年5月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ここよかったと思える住まい」を目指し、施設だからこそ提供できる支援を意識して、サービス提供に努めています。大潤会グループ内の医師、歯科、リハビリ科との迅速な連携によって医療提供を行い、体調の変化に、素早く対応できるように努めています。

本人様の思いを尊重し、家族様へも相談し共に考え、寄り添える対応ができるように取り組んでいます。また、共に過ごして頂ける時間を提案させて頂いています。毎日継続して、介護ミスや事故予防に当然努めておりますが、日々起きる小さな事でも迅速にお伝えし、信頼と安心して利用して頂けるように対応しています。加齢に伴い、身体状況の変化、認知症の進行に対し、負担や困りごとがないように、ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの当事業所(ホーム)は、3階建複合型介護施設「大冠カーム」(小規模多機能施設、小規模特別養護老人ホーム、小規模ケアハウス)に、4年前に追加して併設され、4施設が相互に有機的に機能している。平均年齢84歳ながら要介護1～3の利用者が16名と多く、介護職員(ほとんどが有資格者)による寄り添い、看護師の配置、美味しさ、食べやすさ、嗜好を徹底的に追求した食事の提供等が、元気な利用者を支えている。1階のガラス張りの厨房では、法人の管理栄養士が委託会社のスタッフと協働し、さらに法人の栄養、介護、支援各課が連携して、病院並みの食事管理を行っている。また、法人の各医療機関との連携と看護師による毎日のケアが、利用者や家族に安心を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	活動目標と共に職員室に掲示し、朝礼では毎日唱和を行い、意識統一に努めています。 また、会議や業務の報連相でも、理念にある「個々の生活に必要とされる迅速なサービス」を言葉にして確認しながら、実践に取り組んでいる。	法人精神「潤人潤我」(人を潤し我潤う)のもと、経営理念、職業倫理、行動規範が職員室に掲示され、行動規範等を朝礼で唱和することで、職員の意識の奥にしっかり定着している。別に、2020年度事業所(ホーム)の活動目標として「今を明るく！その時を心地よく！」を定め、日常のケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の予定の中で、地域の方々が、ボランティアとして来所して頂いており、ひと時の交流につなげている。	大冠カーム4施設が、第2水曜日に合同で地域のボランティア(編物、絵手紙、書道、脳トレ、体操教室等)を受入れ、ホームからも希望者が参加している。中学校の体験学習(4人が2日間実施)や、介護士や看護師による出前講座も実施し、地域の大切な一員としての活動を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問しやすい場所として、出前講座や体操教室、脳トレなど、定期的に実施し、継続して取り組んでいる。一緒に参加し、入居者様と同じ時間を過ごして頂いたり、接し方を見て頂き、知る機会につなげている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月第3月曜日に会議を行い、日々の取り組み等を伝達し写真資料を作成して情報を公開している。 入居者様よりも日頃の支援に対し、お話を頂戴しながら、また出席者からのご意見をサービスの質の向上に反映している。	併設の小規模多機能施設と合同で、年6回会議を開催している。利用者代表(各1名)、町内会々長(3町会の持回り)、地域包括支援センター職員、施設長(両施設の管理者を兼任)、両施設の主任、計画作成担当が出席し、施設の現況と、行事・活動を写真を示して報告し、出席者から意見や評価が示され、今後の介護ケアの向上に活かされている。	議事録は事務所横に備え付け、訪問する家族等に公開しているが、遠隔地で訪問が困難な家族には、毎月の書類に同封して郵送することを期待する。今回の家族アンケートにも、ホーム側から家族に歩み寄るサポートを期待する声も見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で問題が発生した場合や発生しそうな段階等、福祉指導課の担当者と密に連絡をとり、情報や資料を公開し助言を得るなどして連携している。	窓口の市福祉指導課とは、日常的に連絡を取り合って報告や申請を行い、情報提供や助言を受けている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、相互に情報交換している。社会福祉協議会の老人施設部会では国の方針や情報を、同業者の集まりである事業者協議会では市の方針や情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して、対象となる具体的な行為など、正しく理解できているか確認し、理解を深めるように周知に取り組んでいる。また、目配りをしながら、安全を確認し、ユニットの出入りの施錠を解除して、環境の改善に努めている。	職員は、研修や3ヶ月毎の「身体拘束防止委員会」等で、何が身体拘束に該当するかの理解に努めている。施設の玄関、エレベーター、各ユニットは、3階ユニット出入口を除いて全て解錠している。3階だけは、利用者の安全のため施錠しているが、室内や居室を見る限り閉塞感はなく、広くゆったりした空間が確保されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、勉強会を実施し、発生しやすい状況を作らないように知識を深め、虐待防止に努めている。また、危険性に対し、早期に気付けるように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいませんが、必要時は適切に対応できるように、書物を読み、詳しく制度を知り、研修に参加したことがある職員より学び、支援に努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項の説明を丁寧に行い、個々の立場に立ち、不明点や不安がないよう配慮している。また、状況の変化や法の改正、日々の利用についての疑問質問は随時受付、その都度真摯に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、積極的に話しかけ、暮らしぶりを聞いたり、日々の小さなことでも、お伝えし、コミュニケーションに取り組んでいる。第三者委員への苦情連絡ができるように意見箱を設置し、連絡先を掲示して、ご意見を活かしている。	家族の訪問は、新型コロナウイルス禍以前は頻繁にあり、利用者の日常の報告に対して家族からの意見や相談もあり、相互に良いコミュニケーションが取れている。今回の家族アンケートにも、ホームには気軽に行きやすく、職員も丁寧に対応してくれるという感想が見られる。運営推進会議でも毎回利用者代表が意見や感想を述べており、これら意見を介護ケアにも反映している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の情報は会議後、迅速に伝達し共有している。ユニット会議など、意見を述べる場だけでなく、日頃の業務の中での声を聞き取り、確認を入れながら、業務に活かしていけるように、気を付けている。	ユニット会議、全体会議、運営会議等が開催されており、管理者はこれらの会議を通して、職員の提案や意見を聴取している。また、必要な伝達事項も会議を通して伝えるようにしている。職員との個人面談も活用しており、管理者は、職員の家族を大切に、また職員間の人間関係も大切にするよう、常々伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情を考慮し、休日のとり方は希望にそって対応し、業務でのやり遂げられる時間配分に目を配り、確認している。また、各自が取り組んでいる姿勢に対し、声をかけ、改善する点は、報連相を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談や考課表にそって、今の自分を自覚し、何を学びながら進めていくのか、確認し、それぞれの職員が個々に応じたスキルアップをできるように、研修も取り入れながらサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市事業者協議会や老人施設部会に入会・参加し、他事業所との関わり、ネットワークづくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の関わりを通して、存在を知ってもらい、傾聴時は同じ目線で、ゆとりを持った時間を作り、安心につなげ、信頼して頂けるように関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して利用して頂けるように、生活相談員や介護支援専門員、現場の介護職員等、ご家族のご事情や思いを共有し、いつでも傾聴ができる体制と、来所時は、言葉を交わして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている支援は、迅速に報連相を行い、それぞれの職種が情報を共有、連携して、困ることや不安につながることはないように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の喜怒哀楽を知り、その時の心情を受け止められるように気を配り、傍にいないことを入居者様に感じて頂いて、支援につなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お祝いごとや外出など、可能な限り、お誘いして、一緒に過ごして頂ける時間を作り大切にしている。また、その時々入居者様の思いを知ってもらい、ご家族だから寄り添えることや日頃の必要な物の用意など、一緒にサポートできるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた間柄は、面会や携帯電話でのやりとりなど把握できる範囲で、見守り、施設に足を運んでもらう回数を増やして頂けるように支援している。また、買い物や散歩などは、昔から、よく行っておられる場所を意識している。	4年前にホームが新設された際、1階に併設している小規模多機能施設から入居された利用者が多く、同施設との利用者との馴染みが今も続いている。今の季節は、近隣の小学校の桜を愛でたり、喫茶店や食品スーパーに散歩に出掛けたりしており、職員は多忙な中、可能な限り支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状により、毎日、間柄に変化がある中、時には、ゆっくりと、お1人での時間にも配慮しながら、共に交流を楽しみ、一緒に過ごせる時間を見守り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や本人様とのコミュニケーションを継続し、必要に応じて相談、支援ができるように意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取る時間を作らせて頂くと、思いや希望を伝えられないこともあるため、日常での様子や声より、意向を汲み取り、介護支援専門員と共有、把握に努めている。また、さりげなく声をかけたり、ご家族へ相談し、困りごとがないか確認し、支援している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方については、入居前の小規模多機能施設等の引継ぎ等を活用している。入居後は、職員が寄り添ってより深く利用者の思いや意向を汲み取る努力をしているが、日常のさりげない会話やしぐさの中から本音がつかめる経験もあり、職員間や市の介護相談員とも情報を共有しながらケアしている。利用者2名は意向把握が困難で、家族等の支援を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当である介護スタッフを中心に、本人様の生活スタイルや趣味などを大切にできるように、支援に努めている。 また、プライバシーに配慮し、ご家族より、情報を教えて頂き、把握につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢に伴う身体状況の変化や個々の認知症状を把握し、お1人お1人の過ごす時間のリズムに合わせて、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週1回サービス担当者会議を開催し、計画作成担当者中心に、現状の課題について話し合っている。出席者のアイデアや本人様の思いを反映しながら、介護計画に取り組んでいる。	毎月のサービス担当者会議で利用者の現状を分析し、課題を検討している。会議には、計画作成担当者、職員、看護師等が参加し、日常の介護記録、モニタリング結果や、職員共有の気づき等の記録も反映しながら意見を交わし、利用者の想いと現状に即した介護計画を作成している。6ヶ月または1年毎に見直し、利用者の急変時は、医師等と相談のうえ随時見直し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、各部署が共有できるPCを活用し確認している。計画作成担当者、居室担当者中心に、ケアカンファレンスを通して見直し、気づきや工夫をケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なことを迅速に支援し、臨機応変な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問は楽しみのひとつになっているケースも多く、予定をお伝えし、参加して頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には同法人の往診・受診を受けて頂き、以前からのかかりつけ医を希望される場合は、情報の提供や受診付き添いなどの支援を実施している。	入居時に本人と家族の同意があれば、往診（内科は2週間毎、歯科は毎週）がある協力医療機関に変更してもらっているが、希望によって以前からのかかりつけ医の受診も、家族の支援を前提に可能である。必要に応じて受診の付き添いや情報のやり取り等の支援も行っている。大冠カームには5人の看護師が常駐し、利用者の健康管理を毎日行うことで、利用者や家族の安心と信頼感を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関りの中、入居者様の様子の変化・気付いたことは、施設内の看護師と共有し、毎日連携をとっている。 素早い医療処置が行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時は迅速な情報提供を心がけ、入院中も定期的に面会し、本人様の見舞いと同時に病院関係者と状況や退院後の相談などを積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入居契約時に話し、いくつかの選択肢を提示している。また、入居後も相談を行っている。その方にあった支援、できることを適時、説明できるように情報を共有している。	入居時に、重度化や終末期に向けたホームの考え方や対応できることを利用者、家族に説明し、同意を取り付けている。利用者が重度化した場合は医師から家族に説明を行い、意向を再確認している。看取りの希望がある場合には、利用者や家族にとって悔いの残らない最後を迎えられるよう、家族、医師、看護師、職員が一丸となつての支援体制を取っており、必要な研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれのスキルや経験値を把握し、必要な知識・技術の向上に努めている。個々の事例にそって指導し、慌てずに、確実かつ適切に対応ができるように確認している。勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、防災訓練を実施し、事務所や部署にも掲示物を設置し全職員が災害時の対応を迅速に行えるよう意識している。また水害訓練、不審者侵入時訓練も実施している。	4施設合同の防災訓練を年2回実施しており、消防署からは訓練が良好とお墨付きを得ている。2・3階に位置するホームは、近くに淀川が流れ、水位が2階に達する恐れがあることから、緊急の場合は3階への垂直避難を計画している。1昨年の地震、台風の経験をもとに、ホームでは備蓄も含めて十分に対策をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し丁寧語を基本とし、その方の尊厳を大切に温かい介護を意識している。また、声の大きさにも注意しながら、個人情報に関わる職務であることを意識し、改善する点は速やかに直すように確認している。	接遇研修を行い、認知症になっても人間としての尊厳や羞恥心に配慮している。利用者は「さん」づけで呼び(あだ名では呼ばない)、入浴、排泄、居室入室時には、職員はプライベート空間に入るとして、利用者の気持ちを大切に考え、目立たずさりげない言葉掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声のかけ方、傾聴の仕方に気を配り、本人様が決めることができる環境と言葉以外に表情や行動を察しながら、ケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決めつけた物の見方をせずに、過ごし方は毎日違って自然であることの理解を深め、柔軟な対応ができるように確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や髪の毛のセット・髭剃りなど、ご自身のペースで、できるように寄り添い支援している。行うことが難しくなった方へは、目を配り、ケアをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備を行うことを大切にしている。片付けも同じく、できる事をやりがいにつながるように支援している。メニューによって、ユニットのキッチンにて工夫し、食べやすいように手配りし、食事の提供温度にも気を付けている。	1階に厨房があり、約80人分の法人全体の食事を、管理栄養士の献立を基に手作りしている。ホームでは、イベント食や行事食として、通常の食事に代えて利用者と共に献立を考え、好きなラーメンやカレー等を手作りして楽しんでいる。寿司の出前を取ることもある。家族の協力も得ながら、ファストフード店、回転ずし店等へ外食に出掛ける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々体調に応じ、食べる時間を配慮している。メニューや食事形態を工夫し、食べる量を確保したり、水分は好きな飲み物を提供できるように準備したり、嗜好品の種類を増やし、気分に応じて、おいしく飲んで頂けるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の習慣を大切にしながら、食後の口腔ケアを実施し、清潔保持に努めている。自分で行うことが難しくなった方へは、不快にならないようにケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の様子を把握し、羞恥心に配慮しながらサポートしている。必要に応じパッドの種類を変更したり、便座へ座るタイミングを工夫し、トイレでの排泄の維持に努めている。	トイレでの自立した排泄を促すため、小声でさりげない誘導を心掛けている。ホーム独自の排便チェックシートを活用し、便の状態を把握している。夜間は、利用者一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導を行っているが、基本的には利用者の睡眠を重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の飲用量に注意し、毎日体操など体を動かす時間を取り入れている。また、個々に合わせ、腹部の保温やオリゴ糖・食物繊維などを取り入れ、便秘の改善につなげ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日提供できる環境を作り、楽しみにつなげている。提供にあたって混乱がないように曜日を固定し対応させて頂いている現状だが、業務都合で調整することはなく、個々にそって対応し、入浴剤の活用も続けている。また、お風呂場がわかりやすくなるために、のれんの設置も行っている。	浴槽はリフト付きで、3方向介助が可能で、週3回午前・午後に分けて入浴している。最近風呂入り口に「ゆ」と書かれた暖簾を掛けたところ利用者に好評で、入浴拒否の利用者は少なくなったが、その日の気分によって職員や入浴日を替えて、全員が入浴している。入浴後の楽しみとして、季節によりカルピスやオレンジジュース等いつもと違う飲み物を提供して喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のタイミングで、入眠して睡眠をとって頂けるように寄り添っている。居室の電気を消すタイミングに配慮し、不安にならない日は傾聴し、安眠ができるようにケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携しながら、薬の目的や副作用・用法・用量について、薬局からの情報書類の確認を行い、理解に努めている。また、看護師の指示のもと、様子の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	安全を確認し見守りながら、お1人おひとりが主役となり、ご自身の時間を楽しみ、また、頼りにされる、誰かの役に立っていると、生きがいを感じられるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	交流のある方同士で、一緒に出掛けて頂く予定を作り、楽しみのひとつにつなげている。どの方も外出できている現状ではないが、希望を確認し、体調を見ながら、外出できる機会を増やせるように、ご家族にも相談している。、	建物は複合型施設で、利用者は1階の小規模多機能施設のデイサービスや厨房まで自由に行き来が可能(3階のみ施設)となっており、食事準備や後片づけ、洗濯物の取り込みや畳み、ボランティア行事への参加を行っている。季節により、車で万博公園や市内へドライブに出掛けている。家族と共に外食に出掛ける人もいる。	利用者は比較的介護度の低い人が多いので、短時間でも日常的に戸外に出掛けて外気に触れ、ストレス発散や五感刺激を得られる貴重な時間を持つよう支援することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては事務所での預り金管理対応し、買い物など必要時に引き出す対応をとっているが、希望がある場合は本人様、ご家族と相談の上、所持して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人携帯を持たれている方には発信・受信のサポートを行ったり、会って話がしたいとの希望がある場合は、その旨を家族様へ連絡し、来所をお願いするなどして、希望に沿うように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	良かれと心配りをして飾ったものなどが、入居者様にとって、混乱をまねく一場面が見受けられる為、変わらない空間を維持し、どの方も、ゆっくり過ごして頂けるように、飾りは控えめに音や温度、光などに注意している。	リビングの窓際にベンチが設置され、ちょっとした利用者の休息場所となっている。食堂に台形のテーブルが5台あり、利用者の視線が合わないよう色々な配置ができるように工夫している。手作りカレンダーで季節が感じられ、利用者等の作品は、壁面ではなく、棚上の手に取れる場所に置かれており、全体的に上品な空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係に配慮しテーブルを設置している。お一人おひとり、その日の気分や交流に応じ、席の工夫をしたり、お部屋へ案内したり支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを、ご自宅から持ってきて頂き、置く場所など工夫し、変わらない落ち着いた場所となるように努めている。	居室には、洗面台、トイレ、ベッド、エアコン、防災カーテン、チェストをホームが設置している。利用者は家族と相談しながら、神棚、テレビ、小タンスなど思い思いに持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確認しながら、得意とする事、意欲や関心が向いていることへの働きかけに取り組み、食事準備や洗濯たたみなど、できるだけ、ご自身でできるように手配りし、支援している。		